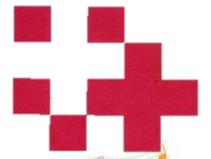


# 虹のかけはし



〒528-0074

滋賀県甲賀市水口町松尾 1256 番地

TEL: 0748-62-0234(代) FAX: 0748-63-0588 <http://www.kohka-hp.or.jp/>

## 【 びわ湖あさがおネットについてご案内 】 地域医療連携部 病診連携

滋賀県独自で行われている ICT ネットワーク「びわ湖あさがおネット」について、ご案内です。よろしければご利用をご検討ください。

### ★びわ湖あさがおネットとは

ICT (information and communication technology: 情報通信技術) を用いて、診療情報や在宅療養支援情報を、関係機関で安全に共有できる仕組みです。

びわ湖あさがおネットは、病院・診療所・薬局や、在宅医療・介護にかかわる機関・施設・事業所の間で、患者さまの診療情報・介護情報・療養情報を共有するとともに、将来は情報を活用して、医療の研究や施策の推進等に役立つための仕組みです。

### ★メリット

患者さんの診療情報・介護情報・療養情報を共有することにより、転院や入院、あるいは退院後の通院や在宅での介護・療養などの場面において、切れ目のない質の高い医療・介護サービスを受けることができます。重複したお薬の処方を防いだり、重複した検査を防いだりすることによって、医療費の負担軽減にもつながります。将来的に医療情報を分析・評価することにより、研究等による医療の発展や医療施策の推進を図ることができます。

以前、他の医療機関で検査したデータと最新の検査データを比較して、治療に役立てることができます。

### ★利用までの流れ

まずはかかりつけ医や施設スタッフにご相談ください。担当者より利用説明を受け、ご納得いただきましたら、「参加同意書」にご署名をお願いいたします。この「参加同意書」をもって、患者さまの情報共有を開始いたします。

なお、「びわ湖あさがおネット」への登録および利用にかかる費用負担はありません。※1

### ★情報漏洩がご不安な方へ

外部からの不正な侵入を防ぐため、専用の回線、あるいは暗号化によってセキュリティが担保されたインターネットを利用しております。ご安心ください。

### ★実績、参加医療機関数

医療情報を開示できる施設が 308 施設、医療情報を閲覧できる施設が 456 施設、同意している患者さんは 75,356 名です。※2

### ★当院のご相談窓口について

地域医療連携部にて相談、説明、手続きを行っております。ご利用をご検討されている方は 1 階正面玄関入って右の総合受付にてお声がけください。

※1 参加機関が「びわ湖あさがおネット」を通して診療情報・介護情報・療養情報を提供・閲覧する場合に、従来からご負担いただいていた診療情報提供料加算の対象となることがあります。また、一般診療・介護サービスにかかる費用は、通常通り自己負担が発生します。

※2 令和3年2月現在の情報です。



## 【 健康講座のご案内 】

今年度は、コロナウイルスの関係で健康講座の開催ができませんでした。

来年度の予定につきましては、現在調整中です。

決まり次第ご報告させていただきます。ご参加をお待ちしております。



## 【 入退院支援センターが開設されました 】



2020年6月に『入退院支援センター』が甲賀病院地域連携室向かいに新設されました。主な業務としては、予定入院が決まった患者を対象とした入院案内です。スムーズな入院生活を送るため、そしてより早い時期により良い状態で退院できることを目指して面談を行っています。担当スタッフは保健師1名・看護師1名・アシスタント2名です。

現在は、新型コロナウイルス対策として空気清浄機の設置、換気の徹底、おもいやりパネルの設置など感染対策を講じて安心した環境での面談を心がけています。

持参薬の確認や休薬必要時には薬剤師との連携で確認・案内する、また介護サービス利用者にはサービス状況の確認を行って早期に担当者へ報告するなど多職種と連携しながら行っています。

今後も患者サービス向上を目指して質問しやすい環境づくりに心がけていきます。



## 【 編集後記 】

この間お正月だったのに「もう3月・4月?!」って嘆いています。時は風の如く過ぎ去っているのですが、あえて言えば「嵐の如く」過ぎ去っています。1年1年、年を積むにつれて時間が早く過ぎるように感じるのです。そのような方も多いのではないのでしょうか。早く過ぎる時間を有効活用しようと世の中ではSNS等のネットワークを利用して情報を得たり、商談をおこなう、また集会の場を設けるなどの動きが活発なようです。しかし、私はかねてより仕事・家庭双方においてそのようなものを使うことについて苦手で、なるべく関わらないようにと避けていました。そこに昨今感染症の広がりに伴い、その予防の観点からSNSを活用して仕事・学習をする必要性が出てきました。これは私にとって「わからないっ!」の「嵐」です!しかし、オジサンもこれに順応しないといけないみたいで・・・がんばります。(初老のN)

